

緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点の概要

- 地域再生人材養成ユニット名
「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点」
- 総括責任者名
「学長 福田 優」
- 提案機関名
「国立大学法人福井大学」

地域の現状と地域再生に向けた取組状況

全国の原子力発電所の約3割が集中している福井県若狭地域の中心都市である敦賀市では、原子力に関する事故等により市民の不安感が高まっている。緊急被ばく医療に強い医師を、地元の中核病院であり初期被ばく医療機関として指定されている市立敦賀病院へ配置することにより、住民の原子力施設への不安を軽減し、また、住民を主体とした防災対策の充実を図ることができる。

本学医学部附属病院及び市立敦賀病院は、平成16年の美浜原子力発電所3号機蒸気漏れ事故において、被ばく医療機関として治療に当たった実績がある。このような経験を基盤に、敦賀市の地域再生計画と連携した「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成の拠点化」及び「緊急被ばく医療体制の整備」が、敦賀市、そして将来は、若狭地域や福井県全域の再生につながると考える。

地域再生人材創出構想

福井大学（医学部及び医学部附属病院）と緊急被ばく医療体制の更なる充実が必要な敦賀市（市立敦賀病院）の連携による新しい医師養成システムを形成し、救急診療、総合診療、緊急被ばく医療の3領域に精通した「緊急被ばく医療に強い救急総合医」を創出するため、緊急被ばく医療の専門医養成コース（3年間）と指導医養成コース（2年間）の2段階において、既存の救急診療教育カリキュラム、総合診療教育カリキュラムに、緊急被ばく医療カリキュラムを上乗せするスタイルで、多施設をローテーションして研修を行うプログラムを立ち上げる。

専門医養成コースの修了者（3年目終了時以降、毎年4名）は市立敦賀病院における救急総合診療及び敦賀市の緊急被ばく医療のリーダーとなることを目標とし、指導医養成コースの修了者（5年目終了時以降、毎年2名）は敦賀市のみならず福井県全体のリーダーとなり、他の道県の教育にも参画できることを目標とする。

自治体との連携・地域再生の観点

敦賀市は、市立敦賀病院における養成プログラム研修者の教育を支援するとともに、「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成連絡協議会（仮称）」のメンバーとして、本プログラムの管理、運営に携わる。また、敦賀市の地域再生計画における救急医療の充実と原子力災害への対応整備に関し、養成された人材を登用する。緊急被ばく医療に強い救急総合医の市立敦賀病院への配置は、地域医療、救急医療体制の充実と直結するものであり、原子力施設と共存共栄できるまちづくりには必要不可欠である。本プログラムは、地域との共生の一翼を担うものであるため、原子力施設を設置している事業者の十分な協力を得ることができる。

なお、養成された救急総合医は、緊急被ばく医療への対応について、院内の職員や敦賀市民に対する積極的な教育、啓蒙活動により、原子力への不安を払拭し、原子力発電所と共存共栄を進める敦賀市の地域再生に大きく貢献する。

ミッションステートメントの概要

多施設ローテーションによる新しいカリキュラムで、社会ニーズに合った「緊急被ばく医療に強い救急総合医」の養成を行う本プログラムは、3年目には12名が研修中であり、うち4名は3年目終了時に緊急被ばく医療専門医養成コースを修了し、市立敦賀病院の救急総合医となる。このことにより、敦賀市の地域再生計画にある「救急医療の充実」及び「原子力災害にも対応できる体制整備」が大きく前進する。

また、本プログラム実施期間（5年間）終了時以降は、毎年2名の指導医養成コース修了者が本プログラムの教育担当者となり、敦賀市（市立敦賀病院）がこの「緊急被ばく医療に強い救急総合医」の養成拠点となる。これにより、将来、若狭地域から福井県全域における緊急被ばく医療体制が確立し、原子力施設のある他の道県においてのモデルケースとなることも目指す。

緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点 実施体制

総括責任者

福井大学長

緊急被ばく医療に強い救急総合医養成連絡協議会

敦賀市、市立敦賀病院、福井大学医学部、附属病院、客員教授、
本プログラム指導者

◎研修プログラム検討、確立 ◎広報、研修者募集 ◎研修者の評価、認定

福井大学医学部附属病院臨床教育研修センター

緊急被ばく医療に強い救急総合医の養成拠点

市立敦賀病院

福井大学医学部附属病院

被ばく医療施設

専門医養成コース

指導医養成コース

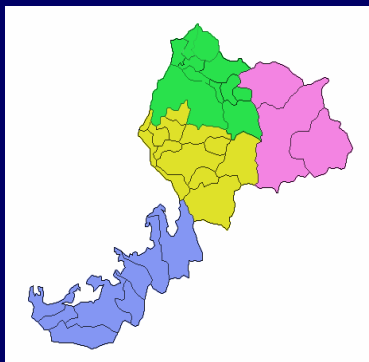
敦賀市内の医療施設・原子力施設での実習や研修

緊急被ばく医療に強い救急総合医

地域医療の再生

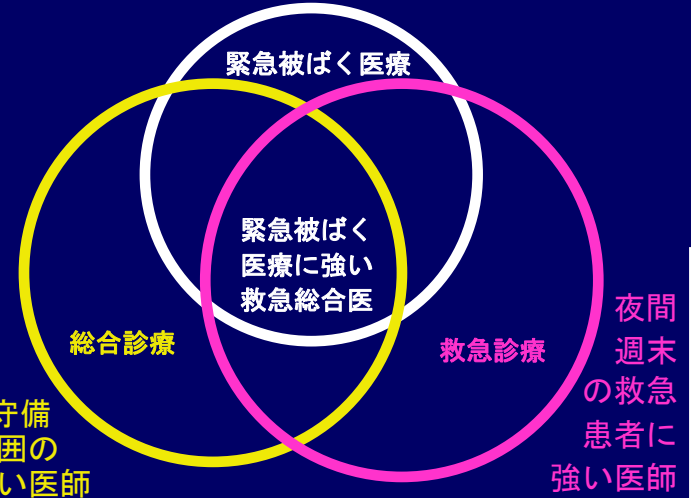
地域住民の原子力に対する不安を払拭

市立敦賀病院 ・ 福井県内外の医療施設



緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点 実施内容

緊急被ばく医療 専門医養成コース



県内外の緊急被ばく医療施設

1年目	2年目	3年目
救急診療 研修	総合診療 研修	被ばく医療 研修
		
福井大学 医学部附属病院	市立敦賀病院	被ばく医療施設
4名 (4名)	4名 (8名)	4名 (12名)

4年目 海外被ばく 医療研修	5年目 被ばく医療 指導者研修
	
REACT (USA) 等	原子力安全 研究協会等
2名 (14名)	2名 (16名)

緊急被ばく医療 指導医養成コース

ミッションステートメント

○ 地域再生人材養成ユニット名

「緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点」

○ 総括責任者名

「学長 福田 優」

○ 提案機関名

「国立大学法人福井大学」

(1) 地域再生人材創出構想の概要

福井大学（医学部、医学部附属病院）と敦賀市（市立敦賀病院）が連携し、多施設ローテーションによる新しいカリキュラムで、社会ニーズに合った「緊急被ばく医療に強い救急総合医」の養成プログラムを構築する。これにより、敦賀市の地域再生計画にある「救急医療の充実」及び「原子力災害にも対応できる体制整備」が可能となる。また、敦賀市（市立敦賀病院）をこの「緊急被ばく医療に強い救急総合医」の養成拠点とし、敦賀市のみならず、若狭地域から福井県全域における「緊急被ばく医療体制」の充実を図り、原子力施設のある他の道県におけるモデルケースとなることも目指す。

(2) 3年目における具体的な目標

本プログラムの専門研修医が3年目には12名研修中であり、うち4名は3年目終了時に緊急被ばく医療専門医養成コースの修了者となる。このうち2名が市立敦賀病院に常勤の救急総合医として就職する。このことにより、敦賀市の地域再生計画にある「救急医療の充実」及び「原子力災害にも対応できる体制整備」が前進することになる。

なお、若狭地域や福井県の地域医療への意欲を持った学部学生を、今後毎年10名増やすことが決定している。地域医療への意欲を持つ若手医師の数を増やすために、これらの医学生に地域医療への意欲を高めるカリキュラムを実施し、本プログラムを補完する。

(3) 実施期間終了時における具体的な目標

実施期間（5年間）終了時、本養成プログラム修了者は、日本救急医学会救急科専門医、総合診療領域の学会（家庭医療学会、総合診療学会、プライマリケア学会の3学会が合体した学会）の認定医の資格取得、及び米国 REACT 講習修了証取得、国内における緊急被ばく医療の講習会において講師の役割が果たせることを到達目標とする。

本プログラム修了者は市立敦賀病院に雇用され、市立敦賀病院の救急総合診療部門の専属の医師として十分な臨床能力を発揮し、市立敦賀病院における緊急被ばく医療のリーダーとして病院職員の教育にあたるだけでなく、搬送関係者、行政、地域住民に啓蒙、教育活動を行い、敦賀市民の緊急被ばく医療への不安を払拭し、社会ニーズに合った人材として、地域再生に貢献する。

(4) 実施期間終了後の取組

実施期間（5年間）終了後以降は、指導医養成コースの修了者が本プログラムの教育担当者となり、敦賀市及び敦賀市内の原子力施設の協力を得て、この取り組みを継続する。

(5) 期待される波及効果

本プログラムは、敦賀市で成功すれば、国内の原子力施設の約3割を有する福井県にとって、近隣（小浜、高浜、大飯等）の医療機関についても同様な医師確保が期待でき、更には、「福井県緊急被ばく医療体制」の整備が可能となる。また、同様な原子力施設を有する他の道県においても、初期被ばく医療機関における新しい医師像としてモデルケースとなることも目指す。